

平成29年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
1: 地域と連携したグローバル人財の育成  ①小中学校等との協働研究事業を推進する  ②小中学校と生徒間交流事業を拡充する  ③実践的・探究的地域学習を充実する	* 地域連携の協議会 * 授業公開と授業参観 * 研究授業と研究協議会	総務課 教務課	地域の教育の接続と継続を図り、地域の教育力を向上させるために、本校のリーダーシップが期待されている。	【成果指標】 協議会や研究授業等に関わり、地域の教育力の向上に貢献できた。	協議会、授業参観、研究授業等に参加し、地域の教育力の向上に貢献できたと考えられる教員の割合が  A 70%以上 B 50%以上 C 30%以上 D 30%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員へのアンケート
	* 挨拶指導 * 中高学習交流 * 進路学習交流	教務課 総務課	本校生が学習したことを地域に還元し、地域の児童・生徒の学力を向上させるために、本校生のリーダーシップが期待されている。	【努力指標】 小中学校との生徒間交流の機会を増やし、地域の学力向上に貢献できた。	小中学校との生徒間交流事業の実施回数が  A 8回以上 B 6回以上 C 4回以上 D 3回以下	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員への調査
	* 地域調べ学習と成果発表 * 朝市出店販売実習 * 地域ボランティア	総務課 第1学年 総合学科 生徒会	地域への興味や関心は高いが、課題意識を持って、主体的に関わり、理解を深めようとする積極性に欠けている。	【満足度指標】 課題意識を持って地域と関わり、地域への理解を深めた。	課題意識を持って、積極的に地域と関わり、地域への理解を深めることができた生徒の割合が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート

平成29年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
2. 主体的な学習態度と深い思考力の育成  ①習熟度別学習指導を充実する  ②ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業を推進する  ③地域調べ学習で培った能動的姿勢を教科学習に活かす	* 習熟度別授業 * 発展学習講座 * 個別添削指導 * 土日学習会	教務課 進路指導課 各学年	入学生の学力低下と学力差の拡大が顕著になり、個々の学力に応じた学習指導が不可欠である。	<b>【成果指標】</b> 個々の生徒の学習意欲を喚起し、学力を伸長させることができた。	入学当初の模試より模試成績を向上させた1年生の生徒が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	1年生模試成績 (7月模試と10月模試の比較)
	* アクティブ・ラーニング型授業のための研修会 * 授業改善計画	教務課	向上した教員のICT利活用のスキルを、生徒の批判的思考力とコミュニケーション能力の向上に繋げることが必要である。	<b>【努力指標】</b> ICTを活用したアクティブ・ラーニング型授業のための研修体制を充実させることができた。	アクティブ・ラーニング推進にむけた校内研修会の実施回数が A 10回以上 B 8回以上 C 6回以上 D 5回以下	C、Dの場合は改善策を検討する。	教員への調査
	* 習熟度別学習課題 * 学習時間調査 * 個別面談	教務課 各学年 各教科	「予習－授業－復習」の学習サイクルを確立できない生徒が増加している。生徒の主体的な学習を支援し、自ら発展的に学力を高めようとする「学習リーダー」を育成することが必要である。	<b>【成果指標】</b> 学習課題と連動させた授業や個別指導により、生徒の学習意欲が高まり、発展的に思考する姿勢ができた。	自ら学習課題に取り組み、主体的・発展的に学習する習慣が身についたと考える生徒の割合が A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート

平成29年度 自己評価計画書

石川県立輪島高等学校

重点目標	具体的取組	主担当	現 状	評 価 の 観 点	実現状況の達成度判断基準	判 定 基 準	備 考
3: キャリア意識と人間力の向上  ①3年間を見通した組織的な教科指導と進路指導を実践する  ②両科生徒が協働した事業を実施する  ③学校行事・課外活動を活性化する	* 3年間を見通した指導計画の作成と実践 * 進路自主学习	進路指導課 各学年	入学生の質の変化に伴い、これまで蓄積した進学指導や就職指導の体制を見直す必要がある。その際、生徒自らが、より早期から進路実現に向けてのキャリア意識を高める支援が必要である。	<b>【満足度指標】</b> 計画的な就職指導や進学指導により、生徒は志望に沿った進路実現ができた。	内定した企業や合格(出願)した大学等に満足している生徒の割合が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート
	* 全校挨拶運動 * 登校指導	生徒指導課 生徒会課	両科生徒が協働して取り組んでいる挨拶運動により、地域からは「挨拶のできる学校」との評価を得ている。学校生活全般において、規範意識を高め、自律的な行動ができることが課題である。	<b>【成果指標】</b> 生徒一人ひとりが、「自律的な生活」を心掛けている。	自分はTPOに応じて、適切な振る舞いができていると考える生徒の割合が  A 80%以上 B 60%以上 C 50%以上 D 50%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート
	* チャレンジウォーク * 学校祭 * 部活動 * ボランティア活動	生徒会課	学校行事や課外活動において、生徒が主体的・能動的に活動する場面が少なくなっている。学校の諸活動を活性化させ、教員が積極的に生徒を支援することが必要である。	<b>【成果指標】</b> 各種行事等の企画・準備・運営において、生徒が自主的・能動的に活動できた。	学校行事や部活動に積極的に取り組むことができたと考えられる生徒の割合が  A 90%以上 B 80%以上 C 70%以上 D 70%未満	C、Dの場合は改善策を検討する。	生徒へのアンケート